

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床基礎検査学実習	1年次	必修	実習	1単位（45時間）	小林 浩二
授 業 概 要					
<p>一般検査における検体採取とその取り扱いを理解し、模擬検体（もしくは実検体）を用いて、尿検査、便検査（寄生虫卵の検出、標本観察を含む）及び脳脊髄液検査（細胞数算定）を行う。尿検査においては用手法だけでなく、自動分析機による測定についても同時に学ぶ。また、尿沈渣標本の作製と鏡検を通して、沈渣に含まれる細胞、結晶、円柱、その他の成分について理解を深める。その他、アスコルビン酸をはじめとする様々な物質がもたらす偽反応について理解を深める。</p>					
到 達 目 標					
<p>○検体の取り扱い ①適切な検体採取について理解している。 ②適切な検体の保存法について理解している。</p> <p>○尿検査 ①尿検査法の操作を熟知し、各種成分の検査ができる。 ②尿検査法の反応原理と偽反応について説明できる。 ③尿検査法の偽反応について説明できる。 ④尿沈渣標本の作製ができる。 ⑤作製した尿沈渣標本を鏡検し、尿沈渣成分を鑑別できる。 ⑥尿中抗原検査を行い正確な結果を出すことができる。</p> <p>○便検査 ①便潜血検査を行い正確な結果を出すことができる。 ②脂肪便検査を行い正確な結果を出すことができる。 ③便中抗原検査を行い正確な結果を出すことができる。</p> <p>○髄液検査 ①髄液検査において細胞数のカウントを正確に実施できる。</p> <p>○寄生虫検査 ①寄生虫の虫卵、幼虫、成虫の形態を観察し、特徴を理解できる（標本観察）。 ②糞便検体を用いて虫卵検査を実施し、その寄生虫を鑑別できる。 ③血液や組織に寄生する寄生虫を鑑別できる（標本観察）。</p>					
回	学 習 内 容				担当教員
1-4	尿検査－1：検体採取、多項目試験				小林 浩二
5-8	尿検査－2：尿蛋白定量、尿定性試験				
9-12	尿検査－3：尿沈渣標本作製、標本鏡検				
13-14	髄液検査：細胞数カウント、関節液検査：結晶の観察				
15-16	糞便検査：便潜血検査、脂肪便検査				
17-20	寄生虫：虫卵及び虫体の観察及び同定1				
21-24	寄生虫：虫卵及び虫体の観察及び同定2				
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予定表に従い事前に予習しておくこと、検査の実施がスムーズになる。 ・ 教科書、配布資料や補助教材を効果的に利用し、予習・復習をしておくこと。 ・ 実技をしっかりと習得するため、実習に集中すること。 ・ 配布資料、実習記録は全て実習ノートにまとめておくこと。 					
評 価 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習修了試験（40%）、実技試験（30%）、実習ノート（30%）により評価する。 ・ 実習ノートは、評価基準に従い評価し、これを満たさない場合は評価しない。 ・ 再試験は筆記試験で評価する。 ・ やむを得ない事由による欠席の場合は、補習実習を行うことがある。 					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
<p>〔教科書〕 一般検査技術教本（監修：一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 出版：丸善出版） 臨床検査学講座医動物学（著者：平山謙二 出版：医歯薬出版株式会社）</p> <p>〔参考書〕 臨床検査総論（標準臨床検査学 監修：矢富裕 他 出版：医学書院） 尿沈渣検査法2010（著者：尿沈渣検査法編集委員会 出版：（社）日本臨床衛生検査技師会） 寄生虫鑑別アトラス（著者：佐伯英治 他 出版：Medical Science）</p>					